

令和6年度第2回 旭川市雪対策審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年7月31日(水) 18:00~19:15
- 2 開催場所 旭川市総合庁舎7階多目的室(旭川市7条通9丁目)
- 3 出席者 **【委員】** 13名  
飯野委員, 石塚委員, 大野委員, 帯川委員, 葛西委員, 岸浪委員, 木下委員,  
田中(紀)委員, 田中(弘)委員, 堤委員, 中田委員, 中込委員, 松林委員  
**【事務局】** 7名  
高橋雪対策担当部長, 時田土木部次長(雪対策課長), 石持土木事業所長  
(雪対策課) 高垣補佐, 関守補佐, 伊藤補佐, 近江主任
- 4 欠席者 **【委員】** 2名  
齊藤委員, 土川委員
- 5 傍聴者等 傍聴者2名, 報道記者2名
- 6 議題 (1) 令和5年度旭川市雪対策基本計画アクションプログラムの取組の  
実施状況報告に係る意見聴取結果について  
(2) 令和6年度の雪対策の取組の方向性について
- 7 資料 次第  
資料1 旭川市雪対策基本計画アクションプログラム実施状況報告(令和5年度)  
意見調書集約結果  
資料1-2 「令和5年度の雪対策の取組」に関する意見調書集約結果  
資料2 除雪連絡協議会で寄せられた意見  
資料3 令和6年度の雪対策に関する取組の検討について
- 8 会議録(要点) 別紙のとおり

## 会議録（要点）

## 1 事務局から報告

本日の出席委員数が過半数を超えており本審議会が成立していること、会議は公開かつ傍聴できることとしており、傍聴者の定員を5名とすること、本日の傍聴者数が2名であること及び前回審議会の会議録配布について事務局から報告。

## 2 開会

ただいまより、令和6年度第2回旭川市雪対策審議会を開催します。

## 3 議題（1）

会長の進行のもと、資料1及び資料1-2に基づき、雪対策基本計画アクションプログラムの実施状況報告に係る意見聴取結果について事務局から説明があった。議事進行は次のとおり。

## 【会長】

雪対策基本計画アクションプログラム実施状況報告に関する意見結果について、主立った意見、質問に対する回答が事務局からありました。回答の一覧も確認し、改めて意見や質問などありましたら御発言願います。

## 【会長】

資料1の2ページ、1-2「効率的かつ効率的な車道除雪の推進」（6）除雪センターの強化の取組項目では、「負担軽減が図られているのか、何か改善する必要があるのか」との質問に対し、除雪センターの負担軽減や効率化に向け、デジタルツールの導入など検討を進める必要があるとの回答がありましたが、このような感じでよろしいでしょうか。

## 【委員】

今後デジタルツールの導入を検討するというので、これらの検討状況について後日報告があると思いますので、市の回答に対して改めて意見はありません。

## 【委員】

デジタルツールで市民から苦情や要望を出しやすくなったことが、件数が増えた理由でしょうか。

## 【事務局】

昨年度苦情や要望件数が増えた理由は、12月に大雪が降り要望が集中したことによるものです。除雪センターの要望窓口を集約し電話対応の体制を強化した方向性は良かったと考えていますが、極端な状況に合わせた人員配置は難しく、除雪センターの体制強化に向けて、電話やメールを受けるだけでなく、今までより一歩進んで、例えばメールフォームをつくり、電話を受けた後に場所を確認しなくて済むよう、地図や写真など位置情報をつけて送ってもらえるような形にする、またそのデータを共有できるなど、デジタルツールの導入について検討を進めていこうというものです。要望の件数が多くなってきているのは、電話やメールしやすくなっている状況もあると思います。

## 【会長】

同じページの、「除雪センターを集約することで効率的な運用が図れるかもしれないがデメリットはないのか」との質問に対する回答は、このような内容でよろしいでしょうか。

## 【委員】

市民から特に苦情は寄せられていないとのことですので、特に問題はないものと思いました。

**【会長】**

7ページ2-4「雪対策における情報発信の充実」(4)除雪作業の可視化の項目ですが、「情報開示により排雪日を事前に告知すると、道路への雪出しが多発するデメリットがある」との意見に対しては、このような回答でよろしいですか。

**【委員】**

情報を出すことで良い面と悪い面があると思いますので、よく検討した上で発信してほしいと思います。

**【会長】**

前回までの会議で皆さんから「動画を見て、除雪作業は大変なものだと市民に理解してもらい、だからこそ、雪対策基本条例をみんなで守りましょうと市民に知らせていく必要がある」という御意見があったと思います。今後、情報発信や市民協働のためのツールなども考えていく必要があるのではないかと思います。

次に9ページ4-1「雪と親しむまちづくり」で「観光や冬季スポーツに関する取組は充実しているので、子どもたちに条例や雪対策の取組を知ってもらうため、働きかけや学校教育の中に位置づけることも必要ではないか」と意見がありましたが、市の回答についていかがでしょうか。

**【委員】**

実際に学校教育の現場でとなると、教育委員会や学習指導要領、現場の先生方との調整などもあり、今後の課題となるとは思いますが、子供たちに、旭川市にこういう条例があると知ってもらう取組はとても重要だと思うので、次の計画の策定時に検討してほしいと思います。

**【会長】**

4-2「雪氷冷熱エネルギーの利活用」の「旭川高等支援学校の学生さんの雪冷房についての探求活動や、美唄市での食品関係の取組など参考にしてはどうか」との意見については、今後の取組を参考としていきますという市の回答でした。この審議会には専門家の委員の方々もいるので、このような雪をうまく活用できる取組も長期ビジョンとして今後検討してほしいと思います。

アクションプログラムの実施状況については、皆さんから出された意見に対し、市の各担当課が対応していることがよく分かったと思います。ほかに御意見、御質問はありますか。

**【委員】**

昨年度は12月中旬からの大雪の関係で、ザクザク路面になったというのが大きな苦情で、苦情件数も多くなったと思います。正月明けからすぐ排雪作業が始まり、前の年より1週間以上早めに道路状況が回復したのは本当に迅速な対応だったと思っており、除雪センターや企業の皆さんには、大変感謝しています。1月以降の件数は去年より多かったのでしょうか。

**【事務局】**

昨年度の苦情要望は全体で1万143件で、12月は約4,580件でした。1月は約3,650件で「排雪はまだなのか」という意見が多く寄せられましたが、2月は約1,400件に減少しました。全体で約1万1000件の苦情要望があった令和2年度には2月に約4,200件寄せられていますので、昨年度は、生活道路の1回目の排雪作業が1月31日までに終了したことで、道路状況が改善されたことが数字にも見て分かると思います。

**【委員】**

もう1つ、他の委員の意見で、なぜ30cmの圧雪にするのかという意見がありました。寒冷地で雪が固まるから30cmという考えでよろしいですか。

**【事務局】**

生活道路は出勤基準の15cmを超える雪が降れば除雪していますが、基準以下での降雪のときには車で踏み固められるため、そうした管理を行い30cm程度で維持するのが今の旭川市の体制です。

#### 【委員】

平均気温が昔より高くなり、ザクザク路面になる可能性も高くなっているのに、今の圧雪管理の30センチでいいのかと疑問に思っています。モデル地区で圧雪を薄く管理しようと試行していますが、柔軟に対応できないものではないでしょうか。

#### 【事務局】

昔と違い、1月中に暖気や雨も降ってしまうという気象状況の中で、令和3年度から圧雪管理手法の検証を進めてきました。昨年度までの3年間の検証結果から今年度に方向性を取りまとめていきますが、生活道路の排雪作業を2回途切れなく進めていく中で、去年の計測結果では大体10cm以下程度に圧雪を管理できている状況にありました。排雪回数を基本2回に増やした効果ですので、これを活かした今後の圧雪管理手法について考えていかなければなりません。大雪が降っても除雪作業でかき分けた雪をすぐに排雪することはできない状況ですし、1回目の排雪作業が終わるまでは圧雪が厚い状況が続きますので、ザクザク路面が生じたときには必要に応じて削り取るなどの計画的な対応について今後検討していきたい考えです。また、圧雪を薄く管理していく場合、削り取った雪が道路脇にたまることで道路が狭くなるデメリットや、排雪作業を2回行う中でどうしても路面が悪い時期が発生するので、市民に周知していくことが重要なものと考えています。

#### 【会長】

市民からの苦情や問合せに対応するため、そのタイミングや傾向を押さえておく必要があると思います。圧雪管理手法のモデル地区での雪の状況については、例えば15cmの圧雪で管理したときの道路脇の状況を撮影して、今までの路面状況と比べてこんなメリット、デメリットがありますと市民に提示して考えてもらうことも必要ではないかと思えます。また、路面管理の今後の方向性については更に検証を進めていくと思いますが、作業を進める中で見えてきた傾向を審議会として共有したり、昨年度の見学会のように道路状況を確認することも必要になったりするのではないかと思えます。

### 4 議題（2）

会長の進行のもと、資料2及び資料3に基づき、令和6年度の雪対策の取組の方向性について事務局から説明があった。議事進行は次のとおり。

#### 【会長】

令和6年度の雪対策の取組の方向性について事務局から説明がありました。前回の会議で令和5年度の雪対策の取組の方向性について報告しており、今後の取組の方向性として問題ないか審議願いたいとのことでしたので、皆さんから御意見、御質問をいただきたいと思えます。

#### 【委員】

資料3の1ページに人的リソースの有効活用とありますが、どのようなことを意味するのでしょうか。

#### 【事務局】

除雪センターには運営に必要な人員を配置していますが、センター機能を集約することによって、4人必要だった業務が3人になるのかもしれませんが。そうすると1名余裕ができますので、これまでとは違う業務に従事してもらうなど、調整を図っていきたいと考えています。

#### 【委員】

天気予報などを見ながらザクザク路面になるときは対応するとの話ですが、実際にザクザク路面になるとかならないとか、そのときの気温だとか、そういうデータとかはあるのでしょうか。

#### 【事務局】

統計的に整理したものや、ザクザク路面発生時に何時間以上この温度が続いたから、というようなデータはまだありません。温度が上昇しても前日の夜の温度が低かったため発生しなかったなど、いろいろな状況があ

り判断が難しいところです。

路面管理手法の今後の方向性で「雪割体制を確保する基準の整理」と記していますが、大規模なザクザク路面に対応できる体制を整えるため、何かしらの目安、基準を定めたいと考えています。急な大雪や局所的な大雪は何日か前でなければ分かりませんし風向きによっても変わるので難しいことではありますが、早期注意情報や早期天候情報などいろいろな気象情報が発表されるようになりましたので、有効活用したいと考えています。

**【委員】**

ザクザク路面で車が何台も埋まったような状況のときに、公的な救出のサポートのようなものはあるのでしょうか。

**【事務局】**

除雪センターでは救出作業の対応は行っていません。道路がそうした状況なので早く対処してほしいとの連絡があれば、除雪センターの職員が現地確認して必要に応じて削り取り、道路の両側にためて交通を確保する作業を行います。

**【委員】**

暖気が一定期間続くような予報だと、路面が緩んでザクザクになりそうだと分かると思います。大雪になりそうだと行動抑制をかける必要がある場合もあります。そうした内容を市民に発信するツールはあるのでしょうか。

**【事務局】**

今はSNSとホームページで発信しています。昨年度はSNSで除排雪の情報をほぼ毎日のように発信しました。大雪や暴風雪など不要不急の外出を避けてくださいという情報も発信しています。

**【委員】**

先ほど他の委員が話していた生活道路で車がスタックしている状況になったときには、町内会や市民委員会を通して連絡するなど、事前に状況に応じた連絡ルートを市民と一緒に考えていくことも重要だと思います。

**【事務局】**

全体的に道路が狭いから何とかしてほしいというような少し余裕がある状況での要望であれば、ある程度までとめていただくとありがたいですが、すぐに対応してほしいという状況でワンクッション置くことがどうなのかという考えもありますし、町内会長や市民委員会長の皆さんはお忙しいので、集中するような形はお願いしづらい部分もあります。

**【委員】**

私の住んでいる地区では、除雪に関してシビアに見ていて、ザクザク路面になると町内会長さんや市民委員会の役員さんから「この道路がひどいから何とかしてくれないか」という電話が来ます。除雪センターに市民委員長として電話をして、作業してもらうこともあります。スタックしている車があれば、町内会の皆さんは押したり引っ張ったりしてくれますし、大きいトラックがスタックしたときは、町内の企業の方に大きな機械で引っ張ってもらえるよう、町内会としてお願いしています。

**【委員】**

町内会の皆さんも大変だと思いますので、いつも生活道路を走り回っている郵便局や宅配便などの方々から、苦情や除雪要請としてではなく参考情報のような形で受けることができれば、市内の道路状況を幅広く把握することができ、予測もつきやすくなりますので、協力してもらうことができればいいと思います。

**【委員】**

本来であればザクザク路面になる前に何か処理をすればいいのかもしれませんがそれも難しいので、今の意見のとおり、いろいろなところにアンテナを張っておいて情報を先に入手し、ザクザク路面になる前にできるだけ対

応することができれば本当にいいと思います。

市でもパトロールの強化は考えていると思いますが、宅配業の方だけでなく、バスやタクシー業界の方々からも情報を得られれば本当にいいと思います。

**【事務局】**

デジタルツールを活用して要望内容と写真や位置情報を通報できる仕組みについて先ほど御説明しましたが、苦情要望だけでなく、ザクザク路面になりそうだとの情報を送ってもらえる形でうまく作用すれば、路面状況が悪化した後に作業が後手後手にならず、悪化してきている箇所を事前につかむこともできていると考えています。

**【委員】**

町内会も高齢化で取組が進まないところがあると思いますが、だからこそ雪の危機の問題でつながっていく、苦対策するから町内会づくりをしていきたいと思いますという逆の発想もあっていいと思います。何かあったときのための連絡網をつくっておくとか、子どもが事故に巻き込まれないようにとネットワークを学校とつくっておくとか、対応が進んでいる町内会から学ぶことも大事だと思います。

タクシー、バス、宅急便、郵便局などの業界の方々の情報についてはどのようにストックするのでしょうか。DXでできるものなのでしょうか。

**【事務局】**

最近の車はコネクティッドカーといって、車の速度が落ちている、ブレーキをかけた、スリップしたなどの情報をビッグデータとして集約する機能があります。グーグルマップでも渋滞情報を見ることができ、赤い表示になったら渋滞していることがわかります。そうして入手した情報の全てに即応できる状況にはありませんが、体制を整えていく上で利用できる情報の入手は進めていきたいと思っています。

**【委員】**

私の地域では宅配便より生協の車を1番よく見ます。大きい車なので、ザクザク路面になると必ずスタックしてしまい押しやり引っ張ったりしますが、そういう情報は確かに必要だと思います。

**【委員】**

トラックにはデジタルタコグラフという運行記録計がついていて、運行時間や速度変化などを記録していますが、リアルタイムで道路状況だとかを把握できる製品もあります。大手企業でそうした製品を取り付けているところであれば、発信することは可能だと思います。

**【委員】**

ごみ収集車は活用しづらいのでしょうか。生活道路を定期的に通行する車両で市に繋がりがあがるもののごみ収集車で、札幌の大雪の時にはごみ収集ができなくなったことがありました。

**【委員】**

大型車が生活道路で埋まってしまうと、一般車はタイヤ幅も違うのでさらに埋まってしまう。

**【事務局】**

資料3で説明しましたとおり、圧雪管理のモデル地区内外とも2回排雪することの効果で圧雪を薄く管理できている状況です。

去年の12月は4回、5回と除雪作業を実施しましたが、出勤基準に満たない雪が降って固まることで走りづらくなっていった状況がありました。排雪までに路面状況をいかに維持できるかが問題であり、いろいろな情報を元に、いかに薄く管理、維持できるかを考えていきたいと思っています。

**【委員】**

資料3で生活道路の1回目の排雪作業は1月31日に完了とありますが、1回目と2回目の完了時期は決めているのでしょうか。

**【事務局】**

1回目の期限は2月10日です。1月31日ぐらいを目安に進め、特別な事情があれば2月10日までとしていましたが、昨年度は企業さんに頑張ってもらい1月31日までに完全に終わらせてもらったという状況です。2回目は3月上旬までを目安にしており、どんなに頑張っても生活道路の排雪作業を一巡するには1か月かかってしまい、2週間にしてくれと言われても不可能なので、計画的に市内のどこかの地域で作業を実施しています。

## 5 その他

会長の進行のもと、除排雪に関する市民アンケートを6月5日から7月10日までの期間で実施した結果、4千件以上の回答が寄せられたこと、次回の審議会で一定の分析結果を報告することについて事務局から説明があった。進行は次のとおり。

### 【会長】

事務局より除排雪に関する市民アンケートについて説明がありました。御意見御質問はありますか。

### 【委員】

4千件とは多いですね。それだけ、市民が除雪に関心を持っていることの表れだと思います。

### 【会長】

次回の審議会でアンケート結果を皆さんで確認していきたいと思います。

事務局より次回開催に係る連絡事項として、10月中旬から下旬にかけての開催を予定しており、2年間の任期における最後の会議となる予定であること、内容は今年度の雪対策の取組に関する報告、除排雪に関する市民アンケートの分析結果の報告などを予定していること、調査票により日程調整し、開催日を決定することの報告があった。

## 6 閉会

### 【会長】

以上で令和6年度第2回雪対策審議会を閉会します。